

(様式3)

令和5年度 県立高校指定校事業（令和4年度指定）実施報告書

学校名	相模田名 高等学校 (全・定・通)	校長名	平田 智則
指定名	教育課程研究開発校 (シチズンシップ教育)	年度	令和5年度
研究主題	シチズンシップ教育の「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに関わる「モラル・マナーに関する教育」を学校全体で組織的に様々な学習活動等を実践して生徒へ働きかけることにより、生徒の次代をたくましく生きぬく知識・能力を培う。		
3年間の目標	生徒の社会の課題を自ら発見し解決する力、周りの人々への思いやりのある豊かな心、ルール・マナーを大切にすることを育む。さらに、教職員一人ひとりが「チーム田名」の一員として、学校全体で「シチズンシップ教育」に取り組むことにより、職員間のコミュニケーション力や授業力、課題解決能力等のスキルアップをめざす。		
本年度の研究内容	<p>(1) 目標</p> <p>本校の研究主題を具体化して「実社会で生きる知恵と経験を獲得する学びを進め、一人ひとりが主体的に生きていく上で必要な能力と態度を養う。」を本年度の生徒に身に付けさせたい力として目標設定する。全教職員がシチズンシップ教育を様々な視点から捉え、学習活動や学校行事等から生徒に働きかけることにより、シチズンシップ教育を通じて育成したい能力・態度を身に付けさせる。教職員においては一人ひとりが「チーム田名」の一員として、学校全体で「シチズンシップ教育」に取り組むことにより、学校組織としての学校運営力や授業力、職員間のコミュニケーション力の向上をめざす。</p> <p>(2) 実施内容 (具体的に)</p> <p>はじめに、本年度における研究の構想を全教職員で共有し、シチズンシップ教育を通して生徒に身に付けさせたい力やその手立て等を確認した。また、シチズンシップ教育の全体像とする「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに関わる「モラル・マナーに関する教育」に、本校独自に領域の一つとして捉えた「主権者教育」の5領域を主軸に教育活動を実践した。本年度に実施した具体的な手立てを、次に示す。</p> <ol style="list-style-type: none">1 全教職員と全校生徒対象に、事前アンケート調査を実施して、シチズンシップ教育についての理解度を確認した。さらに事後アンケート調査を実施することで、生徒の意識の変容をみた。2 4月の各学年集会にて、シチズンシップ教育の目的や、シチズンシップ教育を通して育成したい力等を周知した。また、同月に実施した社会見学では、全学年、社会見学の行程に応じて、各教科担当者がシチズンシップ教育を取り入れた学習活動 (モラル・マナー、SDGs等) を設定した。各教科で事前学習や事後学習、発表を実施し、社会見学で得た学習や体験をシチズンシップ教育と関連付けることで、知識の定着や実社会での活用方法を考える機会を設けた。3 6月に西野偉彦氏による全校生徒対象のシチズンシップ教育講演会を実施し、主権者教育を題材として政治参加についてのワークを全校で取り組み、若者の社会参加の必要性を学んだ。また、講演会実施後にアンケート調査を行い、講演会の理解度や意識の変容を確認した。4 5月から11月の間で全教員が検証授業を実施した。<ol style="list-style-type: none">(1) 検証授業の実施に向けて、各教科の特性を活かした指導方法や評価方法等について教科内で協議することで、共通認識を構築した。さらに教科横断的に取り組む題材等について検討した。(2) 10月に実施した公開研究授業では、1学年対象にシチズンシップ教育における検証授業を実施した。検証授業終了後、単元の評価基準や指導と評価の一体化を踏まえた授業の題材について、教科横断的に協議した。(3) 教員間で各々の検証授業を見学し、本校独自の研究シート (学習指導案) を共有することにより、様々な視点からシチズンシップ教育を考えた。5 9月に実施した文化祭では、各クラスでシチズンシップ教育を踏まえたSDGsに関するポスターの作成や展示ブースの設置をすることで、環境問題や福祉活動等について、学校全体で意識を高めた。6 3月に実施した1、2年生対象の地域連携生徒実践報告会では、本年度に実施した地域連携活動の報告を通して、主体的に物事に取り組むことの大切さを生徒に周知した。 <p>(3) 検証方法と検証結果</p> <p>前年度と同様に、本校独自の事前、事後アンケート調査を実施した。また、「魅力と特色づくりアンケート」と「生徒による授業評価」の項目から、生徒の具体的な変容をみた。また、全てのアンケート調査等について、数値だけでなく記述回答にも着目することで、生徒の意識の変容をみた。</p>		

アンケート調査の指定の項目については、肯定的な回答した生徒が 80%を超え、前年度の結果を上回ることができた。一方で、「シチズンシップという言葉から何がイメージできるか」等の質問に、わからない等の回答をしている生徒が見受けられたため、生徒がシチズンシップ教育の活動に主体的に参加できるように、取組を工夫する必要がある。

(4) 取組指標の結果

授業評価アンケート

単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。

回答	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4. かなり当てはまる	16%	18%	%
3. ほぼ当てはまる	63%	68%	%
2. あまりあてはまらない	19%	12%	%
1. ほとんどあてはまらない	3%	2%	%

授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。

回答	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4. かなり当てはまる	17%	20%	%
3. ほぼ当てはまる	61%	66%	%
2. あまりあてはまらない	19%	13%	%
1. ほとんどあてはまらない	4%	2%	%

魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協動的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めたりすることができていると思いますか。

回答	令和4年度	令和5年度	令和6年度
① そう思う	20%	37%	%
② どちらかといえばそう思う	71%	55%	%
③ どちらかといえば満足していない	7%	7%	%
④ ほとんどあてはまらない	2%	1%	%

まとめ

(1) 成果

事前、事後アンケート調査を比較すると、シチズンシップ教育に関する認知度が飛躍的に上昇した。記述回答では、「もうすぐ社会に出ていく現実味が出た」等があり、生徒に社会の一員としての意識を身に付けさせることができた。また教員対象のアンケート調査では、全教員がシチズンシップ教育に関する検証授業を実施したことで、生徒目線の授業や、生徒の興味・関心を引く授業について考える力が身に付いた等の意見があり、教員の授業力向上に生かすことができた。さらに教員間で検証授業を見学することで、視野や価値観を広げられ、教員間のコミュニケーション力の向上にもつながった。

(2) 課題（今後の方向性を含む）

生徒対象の事後アンケート調査の結果から、各質問項目で「かなり当てはまる」の上昇率がやや低く、また、シチズンシップ教育の基本的な知識が身に付いていないことがわかった。教員対象の事後アンケート調査では、「各教科の特性を活かすことが難しい」や「教員によってシチズンシップ教育の認識に差がある」等の意見があった。

次年度は生徒対象のアンケート調査を多面的に行い、生徒の意識の変容を確認し、どのような力を育成する必要があるのかを協議する必要がある。さらに、今年度と同様に生徒会活動や学校行事等にシチズンシップ教育に関する活動を取り入れることで、様々な視点からシチズンシップ教育を捉え、生徒にシチズンシップ教育の目的と具体的な取組を理解させる必要がある。また教科会では、各教科の特性や評価基準等を協議し、教員対象の研修会等では、学校としてのシチズンシップ教育の方向性を共有することで、全教員がシチズンシップ教育に対する理解をさらに深め、生徒に次代を生き抜く資質・能力を育成できるような工夫を行う必要がある。

その他 特記事項